



桜中だより



坂戸市立桜中学校
校長 石田 章浩
令和5年6月6日
【第3号】

校訓

「自主・澁刺」

学校教育目標

自ら学び心豊かでたくましい生徒の育成

生徒数 1年生 92名
2年生 101名
3年生 113名
全校 306名



5月20日(土)午前5時40分。校庭に7人の教員。ラインを引く者。スポンジを手に持つ者。6時5分。教頭先生、体育科と雨天判定。「雨はこの後降らない予報。時間を遅らせれば実施可能」と判断。6時15分再び降雨。グラウンドにぬかるみがあり、生徒がケガをする可能性があるとの判断。延期を決定。

5月22日(月)午前5時40分。一部にまだぬかるみあり。この日は午後から雷雨の可能性。片付けを終え、生徒を無事に帰らせることを最優先にした運営をすることにした(2、3年生は昨年のことを覚えていると思うが、片付けの時に激しい雨が降ったことを)。今年は、全学年の保護者の皆さんにも参観していただいた。さらに、ご来賓を招待しての体育祭。天気は「本当に雨が降るのか」と思えるような暑さ。競技種目は昨年と同様。途中中断もなく、順調に進む。生徒たちは一生懸命に取り組んでいた。私がここで、くわしく述べる必要はないだろう。

さて、閉会式で述べたが、体育祭を通じて何を学んだかが重要だ。団優勝、学年優勝。それはとても素晴らしい。勝てなくとも、「クラスが一つになれたか」「人に対してどれだけ寛容になれたか」練習中わだかまりもあつただろうが「解消できたか」。そして、自分が人として、成長できたかが何より大切。もし、そうでなければ、体育祭やる意味はない。やらなくてもいい。くり返しになるが、クラスとして、人として「半歩前進」したか、もう一度振り返ってほしい。「いい体育祭だった」と言えるといいな。おっと、大事なことを忘れるところだった。その後の中間テストも「いい結果だった」と「成長した」となっているよね。きっと。以下、学年優勝した生徒の感想である。

練習では、カタパルトと大縄で残りの練習時間を考えながら練習しました。1組全体また、黄団全体が団結

して全力で取り組んだからこそ優勝が取れたと思いました。少しピンチになったときでもすぐに体制を戻して諦めなかったからこそその結果だと思いました。応援の様子では黄団がリードできていない時でも皆が全力で応援していました。団旗を振って応援し、団結しているのがより感じられました。黄団が1位でゴールした時も3位だったときも喜び別の競技に切り替えられました。特に全員リレーのときは練習のときと違い、1位を取るために頑張れました。一人も諦めなかったからこそその名誉ある学年優勝をもらったので、次の行事も団結して頑張っていきたいです。(1年生)

学年優勝を取れたことにとてもうれしく思います。また、印象に残った場面がいくつかあります。特に印象に残ったのは大百足です。練習ではあまりうまくいかない事が何度もあったけれど、たくさん練習していくうちにミスが減っていき、本番では見事1位をとれ、とても印象に残っています。今回1組でとった学年優勝は、1組でしか作れない思い出なので大切にしたいです。(2年生)

大百足で失敗をしてしまい、テントの中での雰囲気が悪くなってしまったけど、何人かの人たちが「切り替えて頑張っていこう」「次頑張って1位とろう」など前向きに声をかけてくれてみんなが気持ちを切り替えて全員リレーに臨むことができ、1位を取ることができとてもうれしかったです。体育祭で学んだことや団結力をこれからの学校生活に生かしていきたいです。来年の体育祭では最上級生として、1、2年生にポジティブな気持ちで楽しむことの大切さを教えてあげられるよう頑張りたいです。(2年生)

1組として学年優勝することができてよかったです。私は、この体育祭を通してまとめることの大切さ、まとめることのむずかしさを実感しました。そして私は目標として全力で楽しむという目標を立てました。私たちが優勝できたのはこの目標のようにクラス全体、団全体がすべての競技で楽しめたからだと思います。その結果、中学校生活最後の体育祭が最高のものになりました。ありがとうございました。(3年生)

私は、学年優勝することができてとてもうれしかったです。みんなで力を合わせて勝つことができて本当に良かったと思っています。最初は息が合いませんでしたが、皆が本気で勝つために練習に取り組んでいたもので、勝つしかないと思っていました。本当に最高の体育祭でした。中学校生活最後の体育祭、とても楽しみ、学年優勝することができてよかったです。(3年生)